

平成 21 年度

事業所名：介護予防施設西光荘グループホーム

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392500021		
法人名	株式会社 金ヶ崎福祉フロンティア		
事業所名	介護予防施設 西光荘		
所在地	〒029-4503 岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根和光544番地2		
自己評価作成日	平成 22年 1月 18日	評価結果市町村受理日	平成 22年 4月 26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0392500021&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成22年2月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

酪農家が多い地域に立地しており、“利用者たち職員は、人が人として‘心と心’が響きあえる時間の流れを大切にしていきます。風と光・水と土・・・和光の自然と地域の皆様と共に歳を重ねていき、楽しく生活できる毎日を支援いたします。”を基本理念として地域との共生を目標としています。入浴は天然温泉となっており、また併設に駒子の湯や和光ドームがあり、定期田園バスが運行されている事もあり、面会やボランティア等交流も多いです。利用者や家族の状況や生活に合わせた対応・支援を行っています。また、訪問診療を中心に早期治療・早期回復、そして感染予防に努めています。平成21年度からは共用型の認知症対応型通所介護が開設され、食事や入浴・1日の過ごし方等様々な課題を抱えながらも職員の研修等前向きに検討しているところです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームでは、21年度より共用スペースを活用して認知症対応型通所介護サービスを実施している。また小規模多機能型居宅介護事業所が併設されているほか、隣接して温泉「駒子の湯」があり、地域の人たちは入浴帰りにホームへ遊びに立ち寄るなど、周囲の環境を活かして利用者との馴染みの関係を築いている。また利用者の高齢化が進んでいないが、医療面においては訪問診療を中心に健康の保持を目標として連携に努めており、職員はできるだけ長い期間、利用者が自立して生活できるようにと支援の在り方を検討するとともにその研鑽に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

平成 21 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設西光荘グループホーム

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務室の見える位置に理念を掲げ、理念の共有に努めているが、業務に追われ実際的に時間を持つ事は難しい。	新採用の職員には管理者から説明するとともに、理念を事務室に掲示し職員に周知するよう意識して努めている。	毎月開催する定例の全体会議でも話し合っており、理念の意識付けに努めているが、今後とも地域密着型サービスの意義と理念の共有を深め実践されることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	緊急時の地域の協力隊の編成、幼稚園児との交流、また中学生の職場体験、盆踊りや自治会だより等交流している。また、歌や踊り・マジック等施設での行事に参加している。	酪農家が多く隣近所といっても距離があるが、緊急時の協力隊を依頼したり、自治会の行事に参加したり、推進会議の委員になってもらったり、隣の温泉に来る地域の人達が遊びに来るなど交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に利用者家族に対し認知症について相談を受け、支援を行っている。また実習生受入の予定もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の割合で会議を行っている。利用者の利用状況や施設の現状報告を行い、理解及び意見をいただいている。	9名の委員で構成されているが、内4名が自治会からの選出となっている。会議は、利用者の暮らしの状況、感染症対策、ホームの整備状況などを報告し、意見・要望はサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護福祉課、地域包括支援センターと日頃から連絡を取り合いながら、協力関係を築いている。地域ケア会議等の場でも助言を求めている。	運営推進会議の委員であるとともに、日ごろから、利用者の徘徊や一人暮らしの金銭管理など困難事例について相談したり、外部評価の結果について報告し助言を得るなど積極的に協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯上夜間のみ行ってきたが、利用者の重度化が進み、入浴時等見守りが困難な時に簡易的に施錠する場合が出てきた。また異食の危険を考慮し、家族に了解を得て就寝時のみつなぎ服を着用している利用者がいる。	一時的に玄関施錠を行っていたが、見守りや関係改善に努め解消している。また、異食する利用者があり、家族と相談し同意を得て就寝時のみ、つなぎ服を着ているが、できるだけ着用しないようにと工夫に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修やパンフレットの回覧など職員の周知を図っている。入浴時等に身体観察を行い注意を払っている。また、泊まり・通いの利用を増やすなど家族の介護負担の軽減を図るよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加している。現在実際に日常生活自立支援事業を利用している利用者がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項の説明等行っている。介護保険報酬の改定の際には文書や家庭訪問により説明・理解を得た。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口の設置・アンケートの実施など行っている。管理者や職員は利用者家族の思いや意見を申し送りノートに記し、ミーティングで話し合っている。また介護相談員の訪問を受けている。	推進会議や面会、通院、利用料の払い込みの際などを活用しているほか、最近では「連絡帳に担当者のサインがない」など意見があり、要望を全体会議で検討し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例のミーティング時に意見交換を行っている。	毎日、朝の送り時や、毎月第3水曜日に開催する全体会議の場で職員の有給、利用者のインフルエンザの対応など意見や要望、提案を聞く機会をもうけ運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人のコスト意識が高く、職員個々の努力・向上心に応えるような就業環境とはいえず、やりがいを感じつつも給与水準・労働時間で職員は迷いを感じている。早急に就業環境の整備が必要である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会がある場合は積極的に参加するように配慮しているが、費用の関係で制限される場合がある。内部研修の企画も必要と考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新しい職員は他のグループホームで研修している。またグループホーム協会の定例会・交換研修、町主催の介護職員連絡会議等に積極的に参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談や申込みがあった場合は、本人の健康状態や生活上の問題となる事、要望をアセスメントしている。また可能な場合はホームの見学に来ていただき、本人の要望や不安を理解するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の介護上の困難な事や思いに耳を傾けアセスメントしている。入居前は充分に見学して頂き、入居後も密に連絡を取り合うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況をよく聴き、また本人及び家族の要望を踏まえ、必要としているサービスが利用できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、食器拭き、自室のシーツ交換、モップがけ等手伝っていただき、また利用者の要望で一緒にすいとん作り、花壇作りや野菜作り、山菜採りなど行い、出来る事を探り減らさない努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に対し、本人の状況を報告し連絡を密にするように心がけている。 家族が面会の際に入浴を行っている利用者もいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも家族や馴染みの人達が訪問し、ゆったりと過ごせるように配慮している。	隣が温泉であることから地域の人が入浴の帰りに寄ったり、近所の人々が季節の花を持参して遊びに来たり、床屋や魚・パンなどの移動販売がホームに来たりしており、人とのつながりが築かれ、また保たれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションのとりやすい席の工夫や声がけなど利用者の個性やペースに合わせて関わり合いの支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでは入院・死亡による契約終了がほとんどである。入院中は本人・家族に面会や訪問し相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や関わり合いの中で本人の思いを推し量り、ケアプランに反映するようにしている。	食事や散歩、特に個別支援となる入浴はコミュニケーションの良い機会として捉えさまざまな話題から希望や意向を把握し、その情報を共有するとともに、日頃の表情や動作を観察するなどして職員間で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人・家族から生活歴・経緯・出来る事・好きな事(物)等を聞き取り、把握するように努めている。また、日々の会話や関わり合いの中から情報を得よう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わり合いやバイタルチェックで個々の行動パターン・出来る事や心身の状態の把握に努め、ミーティングや申し送り時に情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見・要望を聞き、職員も交えた意見交換をして、ケアプランに反映させている。	本人の思いや家族の意見・要望を聞き、医療をはじめ必要な関係者と相談して検討し、定期では3ヶ月に一回、状態によっては随時見直し現状に即したケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の支援記録に日々の様子を記録し、朝の申し送りで情報を共有し、それをケアプラン作成の参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活支援事業の利用、訪問診療の利用、家族の宿泊、床屋・クリーニングの訪問等、ニーズ発生時に随時対応を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ケア会議等を通し連絡調整し利用者にあった利用ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞きながらかかりつけ医・協力医の選択をしている。受診は家族にお願いしているが、訪問診療の利用や受診の援助も行っている。また家族対応の受診の際に同行し状況・状態の報告、説明を受ける事もある。	かかりつけ医は本人と家族の希望によるが、訪問診療を利用する場合は、相談して主治医を変更している。受診は原則家族となっており、家族が付き添いできない場合は職員が同行受診して、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の利用者の様子を看護師に報告し、指示を仰いでいる。常に介護と看護が連携をとっている。看護師は利用者の状態観察に努め、適切な対応・指示が出来るように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には病院関係者・家族とホームでの様子・経過など情報交換を行っている。また、出来るだけ病院に見舞いに出向き、病状の経過・状態把握し、退院後ホームに戻った際は混乱がないように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、今後どうすべきか家族・かかりつけ医と話し合っている。	重度化した場合の支援は、契約の際に家族と話し合いをしており、本人の身体状態を看ながら入院するか、ほかの施設へ移るかなど主治医と相談し、家族に判断してもらうこととして取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年救急法の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者と共に避難訓練を行っている。地域に協力員(3名)をお願いしている。	消防署の立会いで、職員と利用者が参加し避難誘導と消火器の訓練を年2回実施するとともに、協力員を依頼して協力体制を築いている。また、平成21年度にはスプリンクラーを設置している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使い等には日々注意してはいるが、指示や注意をするような声かけになってしまったり、あまりに馴れ馴れし過ぎる声かけになってしまうことがある。気がついた時は職員間で注意をしあっている。またマニュアルやパンフレットを時間のある時には読んでもらうようにしている。	人生の先輩として敬意を払い支援に努めているが、誘導の声かけ等の際に強い口調や大きな声をだすこともあり、利用者本人や周囲への配慮について申し送り時に確認するなど、その時にお互い研鑽を積みながら対応している。	日々の生活状況や利用者によって関わり方等が異なると思われるが、言葉かけや対応について具体的な事例を想定しながら、今後とも研修を継続されることを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話や関わりの中で本人の思いや希望を押し量り、いくつかの選択肢をもうけるなど自己決定しやすい状況を作り出すよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事また午後のレクリエーション等時間は決まってはいるが、個々のペースで参加している。限られた職員数のなかで、一人ひとりがその人らしくという支援には至っていないのが現状である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞きながら、洋服の選択、整容の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭き・テーブル拭き等できる事を手伝っていただきながら準備や食事、片付けを行っている。また利用者の希望により利用者の指導を受けながらすいとん作りを行う事もある。	テーブルを囲み世間話や料理の話をしながら、利用者と職員と一緒に食事をしている。また利用者に手伝いをお願いし、すいとんを利用者に教わりながら作るなど利用者の力を活かした機会づくりを行うとともに楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が偏らないようにバランスの良い献立を工夫し、個々の状態や好みに応じ、苦手なものは手を加えて食べやすく形を変えたり、とろみをつけたり刻み食にしている。また個々の状態に応じた食事量を提供し、食事量水分量の把握に努めてる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師の指導のもとに、毎食後の口腔ケアを徹底している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表により時間を決めて声かけ・トイレ誘導を行い、できるだけトイレでの排泄をうながしている。また個々の力や排泄パターンによって、オムツ・パッド等の使い分けをしている。	排泄チェック表を作成し、食事前やおやつ前、昼寝のときなど水分補給の状況を見ながら誘導し、排泄の自立に向けた支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜・ヨーグルト・牛乳・水分を意識的に摂取するようにしている。毎日軽体操をおこなっている。また、排便チェック表を記入し、主治医と相談して排便コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	共用型の通所介護を行っている関係もあり、午後は併設の小規模多機能型居宅介護でのレクリエーションに参加しているので、入浴は午前となっている。ただ本人の意思により入浴するかどうかは決めていただいている。	毎日入浴可能であるが、日々本人の意向や様子を伺い、1日おきに入浴している利用者が多い。また入浴拒否が続くような場合には、家族の協力を得て対応して清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の時間は設けてあるが利用者の自由となっている。夜眠れない時などは温かい飲み物の提供や話し相手など寄り添う支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の薬の目的・用法・用量・副作用の確認が出来るように専用のファイルに綴られている。服薬は利用者本人に手渡し、確実に服薬の確認を行っている。症状の変化は見逃さないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日併設の小規模多機能型居宅介護のレクリエーションに参加し、季節ごとの行事やカラオケなど楽しんでいる。また希望に応じて買い物やドライブに出かけている。外食は難しいので温泉から出前をとった。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や紅葉狩り等、季節感を感じられるようドライブを企画している。可能な利用者は買い物に出かけているが、重度化が進み外出の機会は減ってきている。	高齢化が進んできており車椅子利用者もいるが、日常的には、隣接する温泉の売店へ出かけたり、ホームの周辺を散歩している。また、希望に応じて花見やドライブ、買い物などに出掛けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から預かっているお金から、利用者の希望や力に応じてお金を渡している。隣の温泉の売店や移動販売で買い物をしている。職員が付き添い支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により電話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	七夕飾り・クリスマス・正月・水木団子等季節感が感じられるよう飾り付けている。また行事の写真や書初めなど楽しみを思い起こせるような展示もしている。	共用のスペースには、腰をかけるのに丁度良い小上がりの畳スペースや、ソファがあり、周りの壁には季節の行事の写真や書初めの習字が飾られている。対面に作られている台所から調理の様子や臭いが感じられ、廊下も広く、のびのびとした空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前の畳スペースやソファで思い思いにくつろいでいる。廊下にやはり小さな畳スペースとソファを置き、皆と離れてくつろぐこともできるようにしている。また皆と離れた位置で食事が出来るようにも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物を持ち込み、家族の写真を貼ったりなど、本人の居心地の良ように配慮している。仏壇を持ってきている利用者もいる。	仏壇、タンス、藤椅子など馴染みの調度品も持ち込まれ写真や書道、季節の花などを飾り自分の部屋として、職員と一緒にきれいになり整理整頓しており、安心して暮せるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーとなっている。居室やトイレには必要があれば名前や目印をつけている。		